鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

第28号　H19．12．28

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

「可能性の扉を開くのは自分しかない」

校長　小倉寛恒

「信じるところに現実はあるのであって、現実は決して人を信じさせることが出来ない。」

冒頭の言葉は、太宰治の小説『津軽』の一節である。

太宰治の文学は、いつの間にか人の心の甘えた部分を自己肯定的にさせ、どこかで救われるような気持ちにもさせるところがあり、そのことが、人の心をその虜にしてしまう所以であるのかも知れない。そういう意味では、「甘えの文学」と言えなくもない。

しかしながら、太宰の作品の中にも毅然とした精神が貫かれているところもあり、慄然としてそのアフォリズム（警句）に注目してしまう。それが冒頭の一節である。

人はややもすれば、現実という大きな壁に抗しきれずにしっぽを巻いて引き下がったり、体裁の良い理由を並べ牽強付会に過ぎることは多い。

三年生は、大望を果たす直前のカウントダウンの時期にあって、不安と屈託と憂悶を持て余す頃になっていると考えるが、この時期に自分の中に潜む無限の可能性を信じ、それをどのように開かせていくかが成功の鍵となることであろう。

生徒諸君は、それぞれ自らの天稟を現実ととらえ、そのことを自ら絶対的に信ずることによってとてつもない成功を呼び込むであろうと信ずる。

自らの心に、「なんとかなる」という意志が強く作用するか、「もし…だったら」と後悔への無駄なエネルギーを浪費するかはその後の人生にも大きく影響することである。

今こそ「信じるところに未来と現実はある」ことを肝に銘ずべきであろう。

郷土を知る学習

十二月十四日（金）、本年度も一学年による「郷土を知る学習」が実施された。この行事は、鹿児島県内の様々な文化施設や地場産業を訪れ、郷土に対する理解を深め、郷土愛を育むと同時に進路を考える一助となることを目的として毎年行われている。生徒は十一月から断続的に資料収集や事前学習を行い、当日に備えた。今年の各学級の研修先は、11Rは京セラ・松下美術館等大隅方面へ。垂水の道の駅では足湯も楽しんだ。12Rは石油備蓄基地展示館・ツル観察センターなど、北薩方面。一度夫婦になったら一生一緒に行動を共にする「夫婦鶴」の姿に感動した。13Rは、新日本科学・日本エアコミュニーター見学後、霧島方面。飛行機の操縦席に座らせてもらうという貴重な経験をした。14Rは今泉島津家屋敷跡（篤姫観光）・山川地熱発電所等、南薩方面。昼食は、皆で作ったおいしい手打ちそば。15Rは川内原子力発電所・濱田酒造等、川内方面。薩摩焼窯元（沈壽官窯）では、十五代という伝統と歴史を感じることができた。16Rは、新日本石油基地・池田湖等、南薩方面。時遊館COCOはしむれでは勾玉作りを楽しんだ。17Rは嘉例川駅・まほろばの里等霧島方面。まほろばの里では、陶芸体験、バーベキューをした。18Rは、霧島アートの森・高千穂牧場等、霧島方面。鹿児島地方裁判所の施設見学をすることもできた。

以上のようにそれぞれの研修先で多くのことを学び、クラスの団結もさらに強くなり、充実した時間を過ごしたようである。

次は、「郷土を知る学習」についての生徒の感想文を一部抜粋したものである。

「僕は、様々な場所を見学することによって、気付いたことがひとつあった。それは、各見学先で案内役を務めてくださった方々の目の色である。自分たちの持てる技術や味わう苦労、作業のしくみや過程を説明する時は、皆目を輝かせていた。子供のように無邪気であり、それでいて責任と誇りの宿っている目。必要な能力も目指すゴールも違うけれど命をかけてもいいという生き甲斐を持っている点でつながっている。自分の全てを捧げ築き上げたものを僕たち未来の担い手に伝え受け継がせる、それこそが仕事なのだろう。十五代沈壽官さんが、デジタルの温度計がいくら適温を指していてもそれに頼らず、長年培ってきた経験と勘で、勝負所を見極めて、水ぶくれがつぶれて爪から水が出てきても、一二〇〇度の釜と向き合う姿勢を持っているように、僕もいつかは自分の力を信じ、決して屈さない心を持って仕事できるよう日々の生活を大切にしていきたい。」

（15R　鴨志田玲緒）

後期クラスマッチ

十二月七日（金）、後期クラスマッチが行われた。今回は三年生を除く二学年での実施となり、後期中間考査を終えたばかりの生徒たちは、それぞれのクラスで前期クラスマッチのときよりも強くなっている「団結力」を武器に精一杯プレーや応援をして、充実した時間を送った。当日は天候の心配もあったが、当初の予定通り実施され、大きな怪我等もなく無事終了した。

天候のことを誰よりも案じ、準備を進めてきた発足したての生徒会執行部も、ほっと胸をなでおろした。

生徒の感想からは「負けたことは悔しかったが、クラスの皆と仲良くなれたことがうれしかった。」という感想が聞けた。

クラスマッチを通して、さらに深くなったクラスの「絆」を大切に、二〇〇八年も全力疾走しよう。

ダンス発表会

十二月十二日（水）七限目、第二十四回ダンス発表会が行われた。発表者は、二年生のダンス選択者で十チームに分かれて、発表に至るまでの衣装や照明の準備も含めて、七月から作品創りをしてきた。本番一週間前は、朝・昼・放課後と特別練習を重ねて発表会に臨んだ。

披露されたダンスは、リズムダンス、日本舞踊、フラダンス、チアダンスと多様なダンスの要素が取り入れてあったり、傘やボンボン、バトンなどの小物が活かされており、それぞれのグループの個性や、こだわりが伝わる見事なものであった。緊張しながらも精一杯の笑顔で踊るダンサーたちに、会場からは盛大な拍手と声援がおくられた。約半年、互いに協力し試行錯誤を繰り返しながら一つの作品を創り上げた努力が実り素晴らしい発表会となった。

耐震工事のお知らせ

生徒館西側の耐震・大規模改修工事は耐震壁完成、外壁補修も終わり、内部改修工事を残すのみとなりました。その中で4階教室部分は年末に完成し、学校に引き渡され、一月から六教室の部分使用が可能となります。ただし、トイレ及び西側内部階段は使用できません。

また、屋外の給水・排水工事も急ピッチで進んでいます。

なお、生徒館東側のトイレ補強工事は無事に終了致しました。

今後の日程ですが、年末年始の休業を経て、一・二・三階も完成へ向けて仕上げに入っていきます。この二年間の改修工事完成に合わせて自転車置き場も復旧工事が始まります。

一月の主な工事日程

- 工事休業期間　十二月三十日～一月三日
- 渡り廊下内部工事　～一月二十二日
- 10C・20C教室工事　～一月十二日
- 各教室等建具、塗装等仕上げ　～一月二十六日
- 自転車置き場復旧工事　一月四日～

1・2月の行事予定

1月			
1	火	元日	
2	水		
3	木		
4	金		プレセンター
5	土		
6	日		
7	月		
8	火	授業開始日	
9	水	全校朝会　学校安全の日 月曜校時（7限カット）	
10	木	1・2年実力考査（1日目）	プレセンター
11	金	1・2年実力考査（2日目）	
12	土	1・2年悠学講座	
13	日		
14	月	成人の日	定期教育相談　宅習時間調査
15	火		
16	水		
17	木		
18	金		
19	土	センター試験（1日目）　進研模試（2年） 学研ハイレベル模試（1年）	
20	日	センター試験（２日目）　進研模試（２年）	
21	月	学年朝会　センター試験自己採点	
22	火	3年特別授業開始	
23	水		
24	木		
25	金		
26	土		
27	日		
28	月	全校朝会	
29	火		
30	水		
31	木	(7限カット)	
2月			
1	金	中掃除	
2	土	1，2年悠学講座 スクールカウンセリング⑤	
3	日		
4	月	学年朝会	
5	火		
6	水		
7	木	推薦入試（5～7限の授業）	
8	金	学校安全の日	
9	土	2年進研プロシード	
10	日	2年駿台東大模試	
11	月	建国記念の日	
12	火		
13	水		
14	木		
15	金		
16	土	1，2年悠学講座	
17	日		
18	月	全校朝会	
19	火	学年末考査時間割発表	
20	水		
21	木	3年特別授業終了	
22	金		
23	土		
24	日		
25	月	学年朝会 国公立大学前期日程試験(2/25～)	
26	火	学年末考査（1日目）	
27	水	学年末考査（2日目）	
28	木	学年末考査（3日目）	
29	金	学年末考査（4日目）　卒業式予行 中掃除　同窓会入会式	